

科目名	鉄筋コンクリート構造論	英語科目名	Advanced Design of R/C Structures	
開講年度・学期	平成 28 年度・前期	対象学科・専攻・学年	専攻科建築学コース・2 年	
授業形態	講義	必修 or 選択	選択	
単位数	2 単位	単位種類	学修単位(講義 A)	
担当教員	本多良政	居室（もしくは所属）	専攻科棟 4F	
電話	内 838	E-mail	y. honda@小山高専ドメイン	
授業の到達目標		授業到達目標との対応		
		小山高専の 教育方針	学習・教育 目標 (JABEE)	JABEE 基 準要件
1. 鉄筋コンクリート造建物の地震被害と設計規準の変遷を理解する		③	C	(c)
2. 鉄筋コンクリート構造建物のモデル化の概要が説明できる。		③	C	(c)
3. 部材の力と変形の関係を説明することができる。		③	C	(c)
4. 鉄筋コンクリート構造建物の設計法が説明できる。		③	C	(c)
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法				
1～4 提出レポートと課題レポートにより達成度を評価する。				
評価方法				
1～4 提出レポート(30%)と課題レポート(70%)により評価する。				
授業内容		授業内容に対する自学自習項目		自学自習時間
1. RC 造の歴史・設計基準の変遷		①試験体の計画 ②設計基準と地震被害についてまとめる		8
2. RC 造建物の地震被害				
3. RC 構造の概要と材料		試験体計画の内容をまとめる		4
4. 部材のモデル化と考え方		試験体の作成-1		4
5. 部材の曲げ強度-1		①試験体の作製-2 ②部材の曲げ強度についてまとめる		8
6. 部材の曲げ強度-2				
7. 部材のせん断強度-1		①試験体の作製-3(コンクリートの打込み) ②部材のせん断強度についてまとめる		8
8. 部材のせん断強度-2				
9. 耐力壁部材の強度-1		①試験体の作製-4(脱型、養生) ②耐力壁の強度についてまとめる		8
10. 耐力壁部材の強度-2				
11. 柱はり接合部の強度		①加力準備-1 ②接合部、付着についてまとめる		8
12. 鉄筋の付着、定着				
13. RC 造はり部材の実験-1		①加力準備-2 ②実験のまとめ		8
14. RC 造はり部材の実験-2				
15. RC 造建物の設計法		実験まとめ、設計法についてまとめる		4
自学自習時間合計				6 0
キーワード	鉄筋コンクリート構造、設計規準、地震被害、曲げ強度、せん断強度、部材実験			
教科書	1. 日本建築学会関東支部「鉄筋コンクリート構造の設計」、日本建築学会関東支部、2002 2. 日本建築学会「鉄筋コンクリート造建物の靱性保証型耐震設計指針」、日本建築学会、1999			
参考書	1. 日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」、日本建築学会、2010 2. 谷川恭雄他「鉄筋コンクリート構造」、森北出版、2009 年 3. 国土交通省住宅局建築指導課他「2007 年版 建築物の構造関係技術基準解説書」、全国官報販売協同組合			
カリキュラム中の位置づけ				
前年度までの関連科目		建築耐震構造, 建築構造計画, 鉄筋コンクリート構造		
現学年の関連科目		建築耐震設計論		
次年度以降の関連科目		鋼・合成構造論		
連絡事項				
1. 原則として建築耐震設計論を受講していること。 2. 講義形式の授業とする。 3. 受講の際は鉄筋コンクリート構造の内容を確認しておくこと。 4. 受講生に自学自習時間に試験体を製作してもらい、加力実験を行う。結果はレポートにまとめてもらう。 5. 最終授業のときに、理解度を確認するための課題を出す。				
シラバス作成年月日	平成 28 年 2 月 23 日			

平成 28 年 4 月 1 日 授業到達目標との対応が変更したことに伴う授業到達目標対応表の修正